

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2003-418815
起案日	平成20年 1月24日
特許庁審査官	恩田 春香 8934 4L00
特許出願人代理人	逢坂 宏 様
適用条文	第29条第1項、第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見がありましたら、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出してください。

理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の特許文献に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。

2. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において頒布された下記の特許文献に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

3. この出願は、特許請求の範囲の記載が下記のとおりで、特許法第36条第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項9, 19
- ・理由1, 2
- ・引用文献1

備考

第5頁段落「0068」からの光スイッチについての説明等、特に「分子の光学特性が、分子を横切って印加される電界の極性とともに変化」(「0072」)する等の記載を参照されたい。

- ・請求項9, 10, 19, 20

理由3

「電子吸収スペクトルの吸収極大値の変化を伴う分子」とは、発明の詳細な説明のどの分子が対応するのか明確でないで本願発明を明確に把握できない。

例えば実施例1, 2において、「電界で誘起される分子構造変化によって、 π 電子共役系が変化する分子」は「ポリピロール」が対応すると認められ、錯体が形成されると「膜」の色の変化が観察された旨は記載されているが、どの分子が上記分子に対応するのかわからない。

さらに、「少なくとも、電子吸収スペクトルの吸収極大値の変化を伴う分子」は、「少なくとも」がどのようなことを特定しているのか明確でない。

よって、請求項9, 10, 19, 20に係る発明は明確でない。

- ・請求項10

理由3

請求項10に係る発明は、請求項1～8のいずれかと、請求項9とを引用しているが、両者の発明特定事項の対応関係が不明であるので、本願発明を明確に把握できない。

・請求項15, 20

・理由3

請求項15には「前記導電路」と記載されているが、「導電路」の用語はその前に記載されていないので不明りようである。(引用する請求項を請求項14とされたい。)

よって、請求項15, 20に係る発明は明確でない。

・請求項20

・理由3

請求項20に係る発明は、請求項11～18のいずれかと、請求項19とを引用しているが、両者の発明特定事項の対応関係が不明であるので、本願発明を明確に把握できない。

<拒絶の理由を発見しない請求項>

請求項(1～8, 11～14, 16～18)に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

引用文献等一覧

1. 米国特許出願公開第2002/0114557号明細書

P.3

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 IPC H01L51/00, 51/30, 51/40

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせがございましたら、代理権を有する弁理士の中から特定された担当弁理士の方から下記までご連絡下さい。

特許審査第三部 半導体集積回路 恩田 春香

TEL. 03 (3581) 1101 内線 3498

FAX. 03 (3501) 0673

部長／代理

審査長／代理

審査官

審査官補

加藤 浩一

恩田 春香

8617

8934